



令和6年度 卒業式



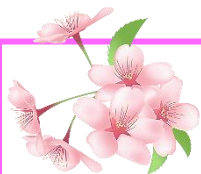
3月1日(土)に第77回卒業式が挙行されました。当日は朝から青空が広がる快晴の天気にも恵まれ、卒業生たちの新たな門出を祝うかのようでした。

卒業式の準備は、前日より全日制の1・2年生が協力し、式場や校内の整備を行いました。そのおかげもあり、長い歴史を誇る本校にふさわしい厳かな雰囲気の中、卒業式が執り行われました。

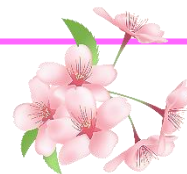
卒業証書授与式では、定時制卒業生代表の飯島咲さんが壇上に上がり、学校長より卒業証書を授与されました。その姿は、これまでの努力の結晶を象徴するかのようにはり輝いていました。

また、答辞では、定時制卒業生代表の小出淳さんが壇上で堂々と感謝と決意の言葉を述べ、これまで思い悩んできたこと、そこから得た経験や成長を語りました。会場にいた全員がその言葉に耳を傾け、答辞が終わった後、卒業生の熱い思いを受け止めた証として、会場は拍手喝采に包まれました。定時制の生徒の思いが全日制の生徒・保護者に伝わった感動的な光景でした。

本校を巣立った卒業生の皆さんが、それぞれの道で輝かしい未来を築かれることを心より願っています。



定時制の卒業生のための 卒業セレモニー



全日制との合同卒業式が終了した後、定時制卒業生のための卒業セレモニーが定時制の教室で行われました。出席者は、卒業生の保護者、在校生、定時制職員であり、温かい雰囲気の中で卒業生の門出を祝いました。

合同の卒業式では、学校長がクラス代表にクラスごとにまとめて卒業証書を手渡しましたが、このセレモニーでは、学校長が卒業生一人ひとりの名前を読み上げ、直接卒業証書を手渡しました。

3年間、毎日学校に通い、授業を受けながら高校を卒業することは決して容易なことではなかったと思われます。ここまで歩んでこられたのは、本人の努力にさることながら、セレモニーに出席していた保護者や先生方の支えがあったことも忘れずにいてほしいと思います。

高校を卒業し、それぞれの進路に進むこととなりますが、その道のりは決して平坦ではないかもしれません。それでも、決して一人ではなく、このセレモニーに出席している人たちが、これからも変わらず支え続けていることを覚えていてください。



◀ 1年生が描いてくれた
黑板アートを前に

学校長が1人1人に
卒業証書を授与した ▶





在校生みんなで卒業生を送る会 予餞会



2月27日(木)に在校生が卒業生を送る予餞会が催されました。企画運営は生徒会が中心となりましたが、準備などは在校生が協力して行い、心温まる会となりました。

まず、生徒会長の阿部翔之助さんが卒業生に感謝の言葉を述べ、続いて前生徒会長である卒業生の小出淳さんが在校生に向けて送る言葉を伝えました。小出さんのこれまでの人生における苦悩と葛藤、そして感謝の思いを知ることができたことは、在校生にとって大変貴重な経験となりました。

また、式の終わりには、図書委員会から多くの本を借りた生徒の表彰が行われ、飯島咲さんと小林優晟さんが学校長より表彰を受けました。

その後、特別献立のハンバーガーをいただき、お腹がいっぱいになったところで小体育館へ移動し、ポッチャのチーム戦を行いました。生徒たちに加えて先生方も参加し、学年の枠を超えたチーム編成で試合が進行しました。6チームを2リーグに分けた総当たり戦を行い、各リーグの1位チームが決勝戦を戦いました。

普段の体育の授業で行うバドミントンやバスケットボールとは異なり、ポッチャは激しい運動ではなく、頭脳と繊細なボディコントロールが求められる競技です。しかし、全員が真剣にプレイし、試合は白熱したものとなりました。

この予餞会は、生徒全員で取り組む最後の行事となりましたが、長野高校定時制らしく、学年や性別を問わず、みんなが仲良く楽しく過ごすことができた、思い出深い一日となりました。



▲ 生徒会長が感謝の言葉



▲ 前生徒会長の在校生への言葉



▲ 図書委員会からの表彰



▲ 狙いを定めてボールを放る



▲ 白玉までの距離を計測



▲ 最後はアーチでお見送り